

COLUMN

みかんの成長記録

5月 白い花が咲き、甘い爽やかな香りが辺りに広がります。



9月 実が大きくなり、おいしいみかんまでもう少し。青く艶やかに光ります。



10月 オレンジ色のみかんがなりました。甘酸っぱい昔ながらの味わいです。



Pick Up!

風布みかん山 組合長  
たちばな園  
坂本勝己 さん



**最** 初のみかん組合が発足した際に、祖父がみかんを植えたのがたちばな園の始まりです。当時はみかんの木も若く、形は丸くて、皮が厚く、とても酸っぱかったと聞いています。その頃から70年が経過し、地球温暖化の影響等で、みかんも年々甘くなってきたり、お店で売られているようなおいしいみかんができるようになってきました。おいしいみかんを育てるためには、日頃の手入れは欠かせません。みかん狩りの時期が終わってすぐにお礼肥(施肥)を行い、3月には剪定、年間を通して、消毒、施肥、草刈りなどの作業をしています。すべてが斜面での作業なので、とても過酷です。しかし、みかん狩りに来られた方から「おいしいみかんですね」と言ってもらえると、過酷な作業も忘れられます。寄居を代表する観光資源でもあるみかんを守っていきけるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

Pick Up!

みはらし園  
田島 博 さん



**み** はらし園は、私が小学校に入る前からお客さんが増えていて、みかんを販売したり、物々交換したりしていました。4代前のおじいさんが畑の隅でふくれみかんを育てていたのがきっかけでみかん栽培をしたと聞いています。当時は波久礼駅から歩いてみかん狩りにお越しいただき、ふくれみかんを枝ごと持って帰られる方もいらっしゃいました。時代は変わって、車でみかん狩りに来られる方が増えています。しかし、歩いてみかん園に来ていただければ、寄居の景色や空気、自然を満喫しながら、より一層みかん狩りを楽しむことができると思いますよ。みかん園では後継者不足が課題となっていますが、観光協会をはじめとする、多くの方の協力によりみかん園を続けることができている。毎年来てくださるお客様のために、これからもみはらし園を続けていきたいと考えています。



特集

寄居みかん狩り 歴史を紡ぐ観光みかん園

CHECK

寄居みかん狩り

- ▶期間 / 12 月中旬まで
- ▶入園料 / 600 円(園内試食自由、おみやげ付)
- 園 寄居町観光協会 ☎581・3012
- 商工観光課 ☎581・2121内線452
- 風布みかん山(たちばな園) ☎581・4977
- 小林みかん山(みはらし園) ☎581・5334



みかん園一覧等は町公式ホームページをご覧ください。

ご利用ください! 日本の里



かすうどん

名水百選・風布川が流れる日本の里。レストハウス風布館では、手打ちうどんなどを提供しています。みかん狩りと併せて、ぜひご利用ください。

- ▶開館時間 / 午前9時~午後5時
- ▶休館日 / 水曜日
- ▶住所 / 風布74



園 日本の里風布館 ☎581・5341 日本里ホームページ

秋の行楽シーズンを迎えた寄居町。10月25日から開園したみかん園には、既に多くの観光客が訪れ、秋晴れの空の下、みかん狩りを楽しむ姿が見られました。

寄居のみかんは、400年以上の歴史があるといわれ、逸話によると、郷土の武将・北条氏邦が故郷の小田原からみかんを持参、鉢形城内に定植し、異郷の慰めとしたと語られています。その後、天正18年(1590)鉢形城開城の際、風布地区に住みついた家臣により移植されたみかんが、現在の観賞用のみかん(ふくれみかん)のルーツといわれています(寄居郷土文化会発行「郷土の歩み」より)。

寄居町における温州みかん栽培の起源は、安政4年(1857)にまでさかのぼります。愛媛県を訪れた田島弥八という人物が、6本の苗木を竹筒に土を入れて生け、枯れないように水をあげながら持ち帰り、植樹しました。その後、工夫と品種改良を重ね、地区の気候に適し、かつ秋の観光シーズンに熟する宮川早生、松山早生、興津早生の3品種を中心に、現在に通じる観光みかん栽培が始まりました。

古くからの歴史を紡ぐ寄居の観光みかん園。今回は、みかん栽培を行う風布・小林みかん山の組合長を務めるお二人に話を伺いました。

園 商工観光課 ☎581・2121内線452